

堀会長就任挨拶

日本伸銅協会 会長 堀 和雅

(三菱伸銅株式会社 取締役社長)

平成27年度における我が国経済を振り返りますと、政府、日銀による積極的な財政、金融政策が行われる中、雇用や所得の環境は改善の傾向に進んだものの、個人消費は伸び悩み、国内生産は低迷する結果となりました。

世界経済につきましては、中国、インドをはじめとするアジアの新興国では一部に景気減速が見られ、米国でも経済成長の鈍化が見受けられました。

そのような環境の下、私ども伸銅業につきましては、平成27年度は、一部品種を除き全体としては、前年度に比べ厳しい状況であった一年となりました。

住宅、自動車、家電など、主な国内外の需要先の低迷などが影響し、伸銅品生産量は76万トンと2年ぶりに80万トン割れとなり、平成24年度以来の低水準となりました。

品種別に見ますと「板条製品」に関しましては、半導体・自動車関係ともに昨年は低調でしたが、ここにきて回復の兆しが見え始めており、本年度は前年を上回るものと期待しております。「黄銅棒」につきましては、住宅関連の底堅い動きに支えられ、落ち込み幅も少なく推移しており、足元の回復傾向に期待しております。また「銅管」につきましても、主力のエアコン向け在庫調整が落ち着いてきたことから、前年を上回る推移が今後も続くものと期待されます。

こうしたことから、日本伸銅協会と致しましては本年度（平成28年度）の伸銅品需要は、前年度比微増の77万2千トンと見通しております。

平成28年度につきましては、足元の日本の四半期GDPが2期ぶりにプラスとなりま

したことを受けて、今後成長率の上昇ペースが次第に高まるという見方もある一方で、引き続き海外経済の先行きが不透明であり、決して楽観できる状況でもありません。

このように厳しい環境下ではありますが、世の中の動きや会員各社のニーズに目を配り、「協会運営」を進めて参りたいと存じます。

その為にも重要なことは今後日本の伸銅品需要の拡大に向け、伸銅業を取り巻く構造的な要因に対処していくことが必要であります。

日本伸銅協会としては、業界全体として何が出来るのかという観点から、昨年度から検討を進めて来ましたが、「伸銅品ロードマップ」の策定作業です。

需要を待つのではなく、業界として将来の需要を新たに発掘していくべく、必要とする技術的対応について、具体的に見極めた上で、それを業界全体としてしっかりと取り組んでいこうとするものです。

このロードマップにつきましては、平成28年5月26日の理事会において、報告書の大筋が了承されましたので、近々对外公表できる予定です。

次に会員各社における「事業環境の整備」の活動ですが、主に5つの内容について、伸銅協会として積極的に情報収集を行い、会員への情報提供を実施いたします。

- ①エネルギーや電気料金の問題
- ②COP21への対応を含めた、低酸素社会への貢献
- ③EPA、TPPを始めとする通商・貿易関係
- ④鉛規制の強化等の環境課題への対応
- ⑤BCP等のサプライチェーンに向けた危機管理対応

尚、必要な場合には、政府への申し入れと行うことも検討していきたいと思います。

そして、我々製造業として、最優先で取り組むべき問題は、「安全」であります。

ご存知のとおり、伸銅業は装置産業でもあり、わずかな事でも重大な災害につながります。伸銅業で働く全ての人々が怪我なく無事故無災害で働けることは、その家族の方共々、私ども共通の願いであり、そのことが結果としてユーザーをはじめ関係する皆様に良い製品、品質を提供できることにつながります。

伸銅協会では安全委員会の基軸に、会員内外の情報の共有や安全の啓蒙活動を通じ、災害撲滅に向けて「安全はすべてに優先する」ことを念頭に引き続きしっかり取り組んでま

いりたいと存じます。

次に「技術課題」についてですが、ロードマップを始め、様々な技術課題を進めるに当たり、産学の連携は重要な課題であります。

昨年度「日本銅学会」は新たな委員会組織に改編するなど、より強固な学会活動になるべく、その一歩を歩みだしました。

伸銅協会として、本年度も引き続き、研究助成制度等の一層の支援を図りたいと思えます。

また、「中小事業規模の会員への支援策」については、引き続き具体的なニーズの把握を行うとともに伸銅協会として、中小事業規模会員向けの懇談会等の企画を検討してまいります。

こうしてみますと、我々伸銅業には中期的な課題も多く、それらに一つ一つ取り組んでゆかねばなりません。

そのためにも、会員相互の信頼関係を大切にしつつ、また、所管官庁であります経済産業省のご指導、ご支援を賜りながら、また学会や関係業界との連携等も図り、これらの課題に全力で取り組んでまいりたいと存じます。

平成28年5月26日